



発行所
日本聖公会 東北教区
仙台市青葉区国分町2-13-15
TEL 022-223-2349
FAX 022-223-2387
URL <http://nssk-tohoku.com/>

シリーズ「東北の信徒への手紙」 口より行動する信仰生活

司祭 ドミニコ 李 賛 熙

「わたしたちは世の中で、とりわけあなたがたに対して、人間の知恵によってではなく、神から受けた純真と誠実によって、神の恵みの下に行動してきました。このことは、良心も証しするところで、わたしたちの誇りです。」(コリントの信徒への手紙二1:12)
コロナウイルス感染症拡大の中で信仰生活を過ごしている東北教区各教会や信徒の皆さん、また地域の皆様の上に神様の豊かな恵みと祝福がありますようにお祈りいたします。

人々は一般的に行動より先に口を出します。また、言うのは簡単ですが行動が伴わなくて失敗したり、信用を失ってしまふ場合が沢山あります。成功というものは、口ではなく、行動に現れます。そのためには行動する生活を守らなければならないということを感じておいてください。

まず、宣言は口がしますが、占領は足ですることになります。足が先に行かなければならない理由があります。宣戦布告をして遠くから攻撃しても、実際にその地に旗を立てなければ占領された土地とすることができないのです。占領は、ただ、その地を足で踏むその瞬間からのもので、皆さんの成功が永遠に皆さんのものになることができます。行動をする場合のみ可能になります。



それだけでなく、口で宣言した者の責任は、行動することと責任を果たさなければなりません。皆さんが成功のため一人ひとりに話をしたとき、その宣言と行動に責任を伴って

いなければ、皆さんは、多くの人々から非難を受けることになりません。したがって、口で述べたことの責任は行動で実践しなければならぬという原理を思い出してください。成功とは、行動する者だけが味わう栄光であることを深く心に留めてください。

第二、行動は練習を介してのみ可能である。

言うことは簡単ですが行動は難しいものです。しかし、言葉より行動が自然に先立つには、瞬間発力を育てる訓練が必要です。瞬発力は頭ではなく、感覚によって可能であり、感覚は繰り返されたトレーニングで可能となります。

足とは、足音を出すことだけでなく行動すること、普段繰り返された行動の習慣が自然に足を動かしています。足の動きは、皆さんが目指した成功の高みを占領するよう

第三、理由は行動を止める。皆さんの行動を停止させ、妨害するものは理由です。いくつかの出来事が皆さんに行動してくれることを要求したとき、同時にあるものが理由です。理由はなぜ?という疑問を要求します。それで、皆さんの頭は、計算に着手し、それによって行動は瞬発力を失い、最終的に行動にブレーキがかかってしまいます。

今、私たち東北教区に必要なのは、相手の声をしっかりと聞くこと、神様が与えてくださった世の中を信仰の目で見ることです。神様の声を聞くことと努力し、神様の力を経験しなければなりません。また、神様の愛を感じる信仰生活が必要で、私たち東北教区のビジョンというものは、いろんな言葉と会議による計画ではなく、神様の前で静かに祈りをしながら、人間の声ではなくて神様の声を聞くこと、人間の計画ではなくて神様の導きを受けとめる謙虚な信仰が必要です。

(仙台聖フランシス教会牧師 司祭 李 賛熙)

司祭 アントニオ 影山博美師 逝去者記念式

2020年8月10日
東北教区主教座聖堂 仙台基督教会にて



5月20日の「影山博美司祭逝去」の報は、教区内外に大きな驚きと悲しみを与えました。さらに新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、全国に緊急事態宣言が発令されていた時期であったために、仙台以外の教役者さえも駆けつけることができない中で、在仙の教役

えながら8月10日に逝去者記念式を行うことを決めたのですが、その直前にまたもや感染症が拡大の傾向を見せ、直前まで行うことができたのか危ぶまれる状況でした。実際に思いはありながらも、感染が拡大傾向にある仙台行きを、残念ながら、あきらめざるを得なかった方がたくさんおら

での検温、マスクの着用、礼拝堂内では間隔をあけて着席するなどの措置をして、逝去者記念式として礼拝が献げられました。
司式を吉田教区主教、輔式を東北教区の教役者団が務め、説教は長谷川清純司祭が務められました。突然逝ってしま

者とご家

族だけで（在仏の娘さんも駆けつけることが叶いませんでした）葬送の儀を執り行わざるを得ない状況でした。それでも何とか葬送の儀に来ることのできなかつた方々と一緒に送ってあげたいという思いから、吉田教区主教と常置委員長で、感染症の状況を見据

れたことでしょうか。感染が拡大傾向という報道がありましたが、たので覚悟はしていましたが、たくさんの方でお送りするとは叶いませんでした。
当日は、本来であれば逝去者記念聖餐式として行いたいところでしたが、こちらも感染症予防のため最大限の注意を払いながら、礼拝堂入り口

礼拝後には、影山司祭を偲んで語り合いたい気持ちには誰にもありませんでしたが、3密を避けるために、すぐに礼拝堂を後にしなければならぬということも、せん無いことでした。

コロナ禍で、何もかもが異例づくめの中で行われたことでしたが、影山司祭の急逝で先のことをまだ考えることもできないであろうご家族のためにも、祈り、支え続けることが、わたしたちが影山司祭を思うしるしではないかと思っています。
(編集部 司祭 涌井康福)

東日本大震災被災者 支援プロジェクト報告

4月からリーダーの長谷川です。7月3日、初めての会議をZOOM会議で開き、現況分析と今後の活動内容を協議しました。

コロナの影響で定期的活動を休止していましたが、名取買物バス支援は手指消毒・車内消毒と換気・マスク着用の徹底を図りながら、6月11日から再開し4〜6名が利用しました。水曜喫茶は現地状況を踏まえて再開の方向、広畑お茶会は当分見合わせ、被災地巡りツアーは中止とします。来年の東日本大震災10周年記念行事は、これまでの構想を一旦棚上げし、記念礼拝は仕方を再考、被災された方々の証言集を作成することにします。

コロナ禍、大雨大洪水に襲われてあまりにも苦痛な昨今ですが、原発に関連する重大な諸課題も抱えたまま、私たちの活動は継続していきます。ポスターとパンフレットを新調します。引き続き皆様のご協力とご支援よろしくお願いたします。

お買い物支援バス(名取市)

6月11日から再開し、以後ほぼ毎週水曜日に運行している。利用者は5〜6名。利用者が住んでいる災害公営住宅周辺にはスーパーがなく買物に不便していたが、7月1日に1軒開店した。

出発前運行後車内消毒、利用者昇降時手指消毒・マスク着用、走行中窓全開等十分な感染症対策を行っている。

水曜喫茶(新地町)

7月29日、5ヵ月ぶりに行った。利用住民6名、現地スタッフ2名、支援PJスタッフ2名、計10名の参加。久しぶりに顔合わせでの近況報告等で話しも弾み、楽しい時間を過ごした。

事前の会場消毒と全員マスク着用徹底、手指消毒を行い、飲食はせず、各自持参したお茶を飲むだけとし、時間は一時間で終了。一番の楽しみである会場での飲食を行わないので、持ち帰り用にお土産を用意して利用者さんたちにお配りし喜んでいただいた。今後は月一回開催(10:00〜11:00)とした。

礼拝堂探検隊

礼拝堂にあさいろいろなもの、
その意味を調べてみました。

(第10回 オルガン①)

今回は「オルガン」です。会衆席の後に置かれていて教会も多々ありと思いが、仙台基督教会では会衆席の一番前に置かれてあります。またオルガンには様々な種類（パイプ・オルガン、リード・オルガン、電子オルガン等）がありますが、東北教区では先代の主教座聖堂に小型のパイプ・オルガンが設置されていたことを覚えておられる方も多いと思います。

パイプ・オルガンの歴史は古く、人類が誕生した時から既に類似の楽器の存在が認められるそうです。オルガンの語源はギリシャ語の「オルガノン」で「道具・器官」という意味でしたが、次第に楽器一般を指し、ついには「オルガン」そのものを指すようになりまし

ました。西方教会におけるその最も古い記録は、フランク王国のピピン（8世紀・カール大帝

の父）にビザンチン帝国から寄贈されたというものだそうです。英国のウインチェスター大聖堂に巨大なオルガンが設置されたという記録もあり、修道院の聖務日課（聖公会では「聖務時祷」と呼ぶ）は1日8回行われていた礼拝）を歌う練習に使われていました。そして時代を経るに従って複雑精巧になり、様々な音色を演奏できるようになりました。

16世紀には各国の教会に、各々の礼拝にふさわしいオルガンが設置されました。宗教改革で会衆が積極的に礼拝に参加するようになり、賛美歌・聖歌の伴奏として、また礼拝の前奏・後奏に用いられ、J.S.バッハでその頂点を極めることになったのです。へつづく（教区主教）



(オルガン・仙台基督教会)



八戸聖ルカ教会

婦人会が解散されたことにより、教会委員会で決めた諸行事の内容を話し合う信徒会を発足することになりました。

コロナ渦中の船出になりましたので、まだ集まりが出来ず、来る9月6日に第1回信徒会を開き、秋の行事を話し合う予定になっています。

名称は投票により「オリリーブ会」に決まりました。オリブは聖書では象徴的によく引用されており、皆に愛される会になることでしょう。

釜石神愛教会

教会の祭壇には、75年前の8月9日、釜石では2度目の艦砲射撃を受け破損した跡が残っています。話を聴いた釜石神愛幼児学園の年長の子どもたちは傷跡を撫でながら、戦争のこと平和のことを考えているようです。

毎年8月のお泊り会では、子どもたちは教会のお風呂

「神さまの湯」に入って、のほせる程に大騒ぎをしますが、今年は日帰りのお楽しみ会になりました。お風呂の思い出が減ってしまった残念です。

秋田聖救主教会

3月末に影山博美司祭を送りだしたばかりのところにもたらされた、影山司祭急逝の知らせに、驚きと悲しみに包まれました。緊急事態宣言の中で、葬送式には後任の浦井司祭さえも列席できず、8月10日に仙台で行われた逝去者記念式にも、感染症の拡大で、信徒は出席できませんでしたが、23日の主日に秋田での逝去者記念式を行うことができました。まだ悲しみは消えませんが、後にご家族が落ち着かれるのを祈るばかりです。

聖ペテロ伝道所

伝道所に久しぶりに定住教役者が与えられました。今は月一回の聖餐式が守られています。伝道所境内は信徒の方のご奉仕で、エデンの園のようによく整備されています。

しかし仙台も7月に入って連日コロナ感染者が出て、い

つもの礼拝が思うように出来ません。残念ながら、伝道所のもう一つの役割である地域に開かれた教会としての活動が全て休止状態です。ひかりおもちゃ図書館、いちごの会…等いつ再会出来るかめどが立ちません。

郡山聖ペテロ聖パウロ教会

「ベイ・フォワードの会」・「ベイバック(恩返し)」を期待するのではなく、私たちがいたいっている恵みと喜びを、殊に教会「外」のみなさんに「恩送り」するひとときです。

毎月第2主日の朝8時から、折々のテーマを集ったメンバーで分かちあう、教会を「開く」実践の一つです。コロナ禍のため休止していましたが、6月から再開致しました。詳しくは下記URLをご参照ください。

<https://saint-peterandpaul-church.jindosite.com/>

小名浜聖テモテ教会

コロナ危機の中でも感謝の気持ちを持ちを!!

信徒の高齢化で益々小さな群れになっている聖テモテ教

会に深く関わってくださった越山健蔵司祭様が仙台へ引越されて、6月14日には渡部拓司祭様をお迎えして信徒の方々が静かに集い、聖餐にあずかることができました。

附属聖テモテ幼稚園も、6月から本格的に子どもたちも登園して、いろいろな制約に対応しながら先生たちと元気にすごしています。主に感謝です。

常置委員会報告 8/10開催

■協議事項
(1) 影山博美司祭逝去記念式について
前回までに決議した準備状況に加え、具体的な担当、対応について協議。
(2) 第103(定期) 教区会について
日本聖公会管区総会がWebでの実施を検討するのを受け、教区会についてもあらた

永遠の平安

パウロ 平井 武
(7月13日・盛岡)

9月逝去者記念聖餐式

9月1日(火) 午前10時
於 主教座聖堂
司式 吉田 雅人 主教
説教 加藤 博道 主教
宣教師 Miss Ellen McRae

1921年9月6日逝去
執事 森 録次郎

1934年9月10日逝去
司祭 結城 光雄

1973年9月10日逝去
司祭 James Chappel

1954年9月16日逝去
主教 コルネリオ 田崎 安男

2009年9月22日逝去
伝道師 ルツ 高橋 菊代

1954年9月23日逝去
司祭 志賀 清光

1935年9月25日逝去